



津嘉山の組踊・狂言

「忠臣身替の巻―八重瀬」



狂言「ハイカラ娘」

津嘉山民俗芸能保存会は、かつて「十五夜遊び」で上演された棒術、舞踊、狂言、組踊などの伝統民俗芸能を次世代に受け継いでいこうと復活に力を入れています。

南風原町の 民俗芸能

Folk Performing Arts in Haeburu Town

南風原町には獅子舞や舞方棒のような一種のはらい(災厄を払う)芸能や八月十五夜の村あそびの中で伝承されてきた数々の芸能が残っています。どれも、先祖のこころを今に伝える貴重な財産です。

Intangible Folk-Culture Treasures

In Haeburu Town, the lion dance, stick dance and other types of purifying performing arts (to exorcise evil) along with amusements and traditional games are enjoyed on the night of August 15th. Many performing arts, which have been handed down, are being preserved and maintained. They are all precious treasures that communicate the spirit of our ancestors to the present day.

獅子舞【宮平・喜屋武・本部】

無形民俗
文化財

沖縄に古くから伝わる一種のはらい(災厄を払う)芸能。南風原には宮平、喜屋武、本部に伝わっており、各字によって、型や獅子頭などに違いがあります。



宮平の獅子舞「マイイ手」

2014年、ハワイに残された資料をもとに復活(創作含む)



本部の獅子舞



喜屋武の獅子舞



兼城の二才踊り

アギ チク テン

「揚作田」

無形民俗
文化財

二人組みの代表的な二才踊で、「御冠船踊」として、先祖代々から八月十五夜の「村遊び」において伝承されてきたものです。両手にゼイを持ち、腰を深く入れた構え、活発な足の運び、力のこもった手の振りなど、動きが力強く大らかで伝統の古さを感じさせる踊りとなっています。



ウフ シュ

「長者の大主」【喜屋武】

無形民俗
文化財

旧暦八月十五夜の祭りなどに演じられる祝賀の芸能で、内容は120余歳の長者の大王が、八月十五夜遊びに招かれて、村の守護神である獅子加那志に子孫繁栄と弥勒世界報の祝言を述べ、多くの子孫たちに芸能を演じさせ祝い遊ぶというもの。喜屋武の住民が最も誇りとして代々継承してきた芸能で、南風原の民俗芸能を知るうえで極めて貴重です。



照屋の舞方棒



南風原町津嘉山の舞方棒

メー カタ ポー

舞方棒

無形民俗
文化財

【宮城・兼城・喜屋武・照屋・津嘉山・神里】

舞台や祭事などの場における清めの開幕舞踊で、力強い棒の舞いによって疫病・災害・悪霊を払う意味があります。南風原町では6つの字(あざ)で受け継がれており、それぞれに振り付けなどに違いがあります。



喜屋武の舞方棒



無形民俗
文化財

ジン カ ヤー

宮城の狂言「銭借人」

約130年前から「十五夜遊び」の中で伝承された狂言のうちのひとつ。内容は、金持ちの伊計ページンから金を借り、返済を迫られ困った与那嶺が、新築したページンの家や庭の造りを褒めあげて上機嫌にさせ、「借用証文」をただで貰う沖縄口の妙味が満喫できる狂言の逸品。



本部のハーベールモーイー

2014年に63年ぶりに復活した「ハーベールモーイー」は男女の求愛を表現した踊りで、女性2人が花の役、男性2人がチョウの役を演じます。



カシ カキ

宮平の女踊り「総掛」

無形民俗
文化財

戦後、二曲組で演じられるようになった「総掛」のなかで、南風原町宮平の「総掛」は三曲三部仕立てとなっており、古典女踊りの伝統的な型を保持している貴重な芸能。